

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890100942		
法人名	社会福祉法人 新清会		
事業所名	桜手苑		
所在地	福井県福井市大手2丁目22-18		
自己評価作成日	令和5年11月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和5年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街地にありながら、買い物や散歩に適した立地であり四季の流れを感じる事ができる場所である。自治会や市のイベントにも参加しやすく地域に密着した環境である。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げになったが、ご入居者への感染予防のため、買い物には出かけていないが、近隣への散歩は行っており、四季を感じて頂けていると思う。また、苑内での四季の行事は大切にしており職員と共に過ごしている。ご家族様との関係性の継続にも心掛け、ガラス越しやオンラインでの面会、電話やお手紙などでやり取りを行っている。ご家族様にはお変わりのない姿や笑顔をみて頂ける様心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は福井市中心部に位置し、近隣には小学校・養浩館庭園・福井城址・公園があり、散歩に適している。また、事業所はさくら通り沿いにあり、桜の時期には玄関先に出ると、花見ができる環境である。5階建ての2階部分に当事業所とデイサービスセンターがあり、3階、4階にはショートステイ、4、5階には小規模特別養護老人ホームがある。又、1階には、地域交流の場のサロンがあり「気楽に」「無理なく」「楽しく」「自由に」憩える場と掲げて、地域住民との交流の場の再開を検討している。複合型施設の利点を生かし、その人らしく安心して暮らせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき、その方らしい生活が出来るよう、話し合いの場を設け、支援している。	法人理念を基本に、職員と話し合いを持ち、事業所独自の理念を作成し、掲示している。職員は、事業所理念の中の一文である「その人らしく生活できるように支援を」を目標に掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍であり、イベントなどに参加したり、苑の方に地域の方を招いて交流する事もまだ出来ない。	自治会に加入している。地区の防災訓練に職員が参加している。コロナ禍前に行っていた施設内のサロンや公民館行事への参加を、再開することを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内のサロンや公民館などを利用した認知症への理解や支援を地域の方々に向け発信できる様に取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在のご利用者の状況やサービス内容を報告し、日々向上できるよう取り組んでいきたい。	法人全体で開催している。構成員は元公民館長・地域包括支援センター職員等である。参加者から意見・要望を聞き、日々のサービス向上に繋げている。	運営推進会議の開催日時等を早めに家族に伝達することで家族の参加がしやすい環境を整え、また、参加できない家族には議事録を送付するなど、運営への理解を図り、サービス向上につなげることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課や地域包括ケア推進課など関連機関に相談し、助言や指導を受けながらケアの向上に努めている。	市担当者に、確認事項や相談等があるときには、電話や訪問で連絡をとっている。また、地域包括支援センター職員には運営推進会議に参加してもらい連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑での委員会や苑内研修、管理者からの指導にて学び職員一人ひとりが理解をしご利用者のケアに取り組んでいる。	事業所主催の、身体拘束の勉強会に全職員が参加している。スピーチロックと思われる事例が生じたときなどはその場で話し合いを持ち、即座に見直しを行っている。その場で解決ができない事例に対しては、法人の委員会にあげて、指示を得ている。利用者の安全確保のため24時間施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待法の苑内外の研修、苑での委員会などに参加し、管理者からの指導も行っている。職員同士が常に注意できる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な家族構成のご利用者が増加している中で研修に参加できる機会をもち、今度の支援に必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関して、十分な時間を持ち、可能な限りご家族様に理解して頂ける様、丁寧な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受診の送迎の際に話が出来る時間を設けたり、遠方のご家族様とはなるべく連絡を取り、ご意見やご要望を把握できるよう心掛けている。	受診の付添時や面会時・電話などで、意見・要望の聞き取りを行っている。把握した内容は、個別の支援や運営に生かしている。利用者の意見等は、日々の会話や行動の中から確認し、支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度、管理者会議、スタッフ会議を設けている。	毎月のスタッフ会議や日常業務時など、職員の意見や要望・提案を聞く機会を設け、日常的に話をしやすい関係性を作っている。即座に対応しなければいけない場合には対応できる体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加(オンライン研修含む)や資格取得の機会は多々ある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量をみながらスキルアップ出来るよう研修などへの参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修(オンライン研修含む)に参加し、他事業所職員との意見交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者、ご家族、居宅ケアマネとの面談を通して、入居前の情報を職員間で共有し、安心を確保できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時や契約時に十分に時間を取り、ご家族の不安や要望をお聞きし、より良い関係が築ける様心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者とご家族の要望を把握し職員同士で話し合いながら支援していけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の興味、楽しい事を一緒に見つけ、取り組むよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを知り、職員全員がその思いをご利用者に反映できる様心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ガラス越しやオンラインでの面会、電話などでの連絡にて関係性の継続に努めている。	馴染みの人や望む場所をすべて事細かく記録している。手紙のやり取りの支援を行っている。面会は、居室ではなく、コロナ感染予防のため了承を得て、ガラス越しで行っている。また、オンラインや電話などで連絡をとり、関係性が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合いそうなご利用者同士でテーブルを囲むようにしている。状況によっては職員が同席することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム～特養に移動された方などに顔を見にいくことをしている。またご家族にも声をかけ相談に乗る事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話からご利用者の思いを把握しご希望に添えるよう努めている。	入居時に利用者の生活歴を細やかに把握している。利用者が安心して生活できるよう日々の関わりの中で本人や家族の思いを聞き取り記録に残し職員間で共有してケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族様。居宅ケアマネより以前の情報をお聞きし、職員間で情報共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中でその方の状況を職員同士で連携しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご使用者と必要な関係者と話し合いの場を設け、状況に応じた計画書の作成が出来るよう努めている。	利用者を全職員で介護をすることを心がけている。日々、利用者・職員・家族からの意見や要望を聞き、現状に即した介護計画になるように、ケアマネジャーをはじめ全職員で介護計画を作成している。利用者の状況に応じて随時変更し、適切な支援ができるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や職員の気づきは記録に残し、情報共有できるようにしている。ご利用者の思いも記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族様の状況を踏まえ、苑にて出来る範囲の対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、現在も地域交流やボランティアの受け入れはできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご家族様をお願いしており、その際に苑での様子をお伝えしたり、必要なものを持参して頂くようにしている。	かかりつけ医に受診している場合と往診をしてもらっている場合がある。緊急時には職員が同行するが、基本的には家族が同行し、事業所作成の情報書等を持参してもらい、受診後に家族から状況を確認している。状況に応じて直接電話にてかかりつけ医から指示を仰ぐ事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の様子は記録し、看護師や医療機関との情報共有し、速やかな連携が取れるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、職員が病院へ向かい、病院関係者との情報交換や今後の対応を話し合える関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、グループホームで出来る支援について職員同士共有している。	重度化・終末期・看取りに対応できることを、入所契約時に家族等に説明している。重度化・終末期が確認されたとき、利用者・家族・主治医と話し合いを重ね、利用者・家族の意向を確認しながら対応をしている。入院や施設への紹介・支援もやっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルにを活用し、研修にも参加して知識を深めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、苑内での避難訓練にも参加している。	年2回火災・地震・水害を想定した避難訓練を実施している。緊急連絡網や防災マニュアルを作成している。事業所は福祉避難所に指定を受けており、備蓄品は地域住民分も準備しており、地域との協力体制を築いている。また、避難訓練を行う時は、地域住民に開催日と時間を回覧板で伝達している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートなケアや話は各個室にて行い、尊厳を損なわないよう配慮している。	年1回プライバシーの研修を行い、プライベートなケアや話は各個室にて行い、一人ひとりの人格を尊重するケアを実践している。個人情報の台帳や業務日誌は、利用者の目の届かない場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者には、まず否定をせずに話を聞くよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせてご希望に添えるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの服などはご利用者本人様に決めてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の食事、おやつ作りは職員と一緒に取り組んでいる。季節ごとの食事には厨房手作りのメニュー表が付いており、料理を確認しながら楽しまれている。	ご飯・味噌汁は事業所で作り、おかずは、法人の厨房で調理し提供している。箸や茶碗、湯呑は個人の物を使用している。利用者は片付けやテーブル拭き等出来る事を手伝っている。利用者と一緒に、たこ焼きやホットケーキなどのおやつ作りを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者に合わせた食事形態にて栄養や水分量が確保できる様にしている。また、病院での検査結果を管理栄養士にも確認してもらい、連携をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンに合わせた支援を行っている。	排泄チェック表でパターンを把握している。トイレに関しては自立している利用者が多く、状況に応じて支援をしている。8名は紙パンツを使用、1名はオムツを使用しているが、トイレで排泄してもらうケアを心がけている。センサーマットは 利用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時のヨーグルトや牛乳、バナナなどを提供し、様子観察を行っている。また、主治医にも相談し、服薬管理も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決めておらず、個々にそった支援をおこなうよう心掛けている。	週2回から3回支援している。希望に応じて入浴回数や入浴時間は柔軟に対応している。入浴剤は、利用者の好みに応じて利用している。シャンプーやリンスなどについても希望があれば、利用者の好みのもを使用することができる。お湯は、1名毎に替えている。希望に応じ足湯を提供することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時のご利用者の状態を見て支援出来るよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の情報は1冊のファイルにまとめて管理しており、いつでも確認し、支援できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の得意とすること、集中できる事などを把握し、日々の活動に活かしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩、ドライブを行っている。	桜の時期に玄関先から沿道の街路樹の花見を楽しんでいる。好天時は、施設周辺を散歩をすることも。今年の夏は、法人主催の花火大会があり、全員で打ち上げ花火を楽しんだ。外出の機会が少ないため、デイサービスセンターからカラオケ機器を借りてカラオケ大会などを行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々にお預かり金を預かり、必要な物の購入や移動販売を利用し、自信で支払いをするよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望で電話やオンラインでの通話の段取りを行っている。また、個人で携帯電話を持っている方の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事が出来るよう工夫し、フロア内の飾りつけを行っている。	廊下、共用空間、対面キッチン、居室も含めた空間は、ゆとりある広さが確保されている。フロアや廊下の壁には、季節を感じられる作品が掲示されている。ゆったりと、落ち着いて過ごしやすい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内に畳やソファも置いてあるため、各々好きな場所で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みには制限はない為、ご利用者の馴染みの物をお持ち頂き、使用して頂いている。	居室にはベッド、エアコン、洗面台が備え付けてあり、馴染みの家具やテレビを持ち込み、利用者らしい温かなプライベート空間となっている。また、清潔感が保たれている。洗濯物を、窓際に干すことができ、利用者自身で洗濯物の管理をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者本人の能力に応じ、家具やベッドの配置、車椅子や座席などの工夫を行っている。		